

野菜花き 8月上旬巡回調査結果の概要

【東北信】 巡回日 8月5日、6日、7日、8日

1 トマト

小諸市の巡回ほ場（露地栽培）は、収穫中であった。7月下旬の調査時より少ないもののCMVの感染株が数株みられた。アブラムシ類の寄生はみられなかったが、アザミウマ類、ハダニ類の寄生がわずかにみられ、オオタバコガの被害果もわずかにみられた。

長野市の巡回ほ場（施設栽培）は、収穫中であった。病害では、葉かび病（図1）、輪紋病の発生がみられ、いずれも平年と比べやや多かった。虫害ではオンシツコナジラミの寄生株率が平年と比べやや高かった。



葉表

葉裏

図1 トマト葉かび病（長野市）

2 きゅうり

長野市の巡回ほ場（施設栽培）は、収穫中であった。病害では、うどんこ病の発病株率が平年と比べ高かった。虫害では、アザミウマ類（優占種はミカンキイロアザミウマ）、ハダニ類の発生が多かった。また、オンシツコナジラミの寄生もみられたが、わずかであった。

中野市の巡回ほ場（露地栽培）は、収穫中であった。7月下旬に引き続きアザミウマ類の発生が多かった。病害の発生はみられなかった。

3 いちご

南牧村の巡回ほ場は、着果期であった。アザミウマ類の寄生がみられたが、寄生花率は、7月下旬の調査時に比べ低くなった。病害の発生はみられなかった。

4 キャベツ

小諸市の巡回ほ場は、結球期であった。コナガ（図2）、ウワバ類等チョウ目害虫の被害が全調査株にみられた。病害の発生はみられなかった。

南牧村の巡回ほ場は、結球期であった。コナガ、ウワバ類等チョウ目害虫の被害株率が、平年と比べやや高かった。病害の発生はみられなかった。

軽井沢町の巡回ほ場は、結球期であった。コナガ等チョウ目害虫の被害株がみられたが、被害株率は平年並であった。病害の発生はみられなかった。

長野市の巡回ほ場は、収穫期であった。病害では、株腐病、黒腐病、黒斑細菌病の発生がみられ、いずれも平年と比べ、発病株率が高かった。虫害では、ウワバ類の寄生が数株で確認され、チョウ目害虫の被害株率が高かった。



図2 キャベツのコナガ（小諸市）

5 ブロッコリー

南牧村の巡回ほ場は、生育期（8葉期）であった。チョウ目害虫の被害株がみられたが、わずかであった。病害の発生はみられなかった。

御代田町の巡回ほ場は、生育期（9～10葉期）であった。コナガ、ウワバ類等チョウ目害虫の被害株がみられたが、被害株率は平年並であった。病害の発生はみられなかった。

6 はくさい

上田市の巡回ほ場は、定植前であった。

小諸市の巡回ほ場は、作付けがなかった。

小海町の巡回ほ場は、結球期であった。病害では、べと病の発生がみられたが、わずかであった。虫害では、チョウ目害虫の被害株がわずかにみられた。

南牧村の巡回ほ場は、結球始期であった。チョウ目害虫の被害株がわずかにみられた。病害の発生はみられなかった。

7 レタス

上田市の巡回ほ場は、結球期であった。すそ枯病、斑点細菌病の発生がわずかにみられた。虫害の発生はみられなかった。

小諸市の巡回ほ場は、収穫期であった。斑点細菌病の発病株率が平年と比べ高かった。また、すそ枯病の発生もわずかにみられた。虫害の発生はみられなかった。

南牧村の巡回ほ場は、結球期であった。斑点細菌病の発病株率が平年と比べやや高かった。また、すそ枯病の発生もわずかにみられた。虫害の発生はみられなかった。

御代田町の巡回ほ場は、結球始期であった。斑点細菌病の発生株率が平年と比べやや高かった。また、すそ枯病の発生もわずかにみられた。虫害の発生はみられなかった。

8 アスパラガス

小諸市の巡回ほ場（露地栽培）は、立茎繁茂期であった。病害では、茎枯病の発生がみられ、発病株率は、同時期の平年値と比べ高かった。虫害では、アザミウマ類の寄生株率が100%と高かった。

小布施町の巡回ほ場（雨よけ栽培）は、立茎繁茂期であった。病害では、茎枯病の発生がみられ、発病株率は同時期の平年値と比べ高かった。虫害では、アザミウマ類は防除により寄生がみられなかったが、ハダニ類の寄生株率が100%と高かった。

飯山市の巡回ほ場（露地栽培）は、立茎繁茂期であった。病害では、茎枯病の発生がみられ、発病株率は同時期の平年値と比べやや低かった。虫害では、アザミウマ類の寄生株率が平年と比べやや高かった。

9 ながいも

長野市のながいもは、生育期であった。アブラムシ類の寄生はみられなかった。

10 きく

佐久穂町の巡回ほ場は、収穫中であった。病虫害の発生はみられなかった。

【中南信】 巡回日 7月31日、8月1日、2日

1 トマト

南箕輪村の巡回ほ場（施設・抑制栽培）は、着花中であった。病虫害の発生はみられなかった。

伊那市の巡回ほ場（露地栽培）は、収穫前であった。薬剤散布の実施により、病虫害の発生はみられなかった。

安曇野市の巡回ほ場（露地栽培）は、収穫前であった。オオタバコガによる果実等への食害（中発生）がみられたほか、葉および果実への灰色かび病（少発生）の発生もみられた（図3）。

2 きゅうり

高森町の巡回ほ場（施設・半促成栽培）は、収穫中であった。病虫害の発生はみられなかった。

松本市の巡回ほ場（施設・抑制栽培）は、生育期であった。病虫害の発生はみられなかった。

3 すいか

飯島町の巡回ほ場、松本市の巡回ほ場ともに収穫が終了していた。

4 キャベツ

塩尻市の巡回ほ場は、収穫期であった（前回から場所移動）。軟腐病による株の枯死（少発生）がみられた。

朝日村の巡回ほ場は、生育期であった（4～5葉、前回から場所移動）。病虫害の発生はみられなかった。

茅野市の巡回ほ場は、生育期であった（4～5葉、前回から場所移動）。病虫害の発生はみられなかった。



図3 トマト灰色かび病（安曇野市）

5 はくさい

木祖村の巡回ほ場は、結球期であった。病害虫の発生はみられなかった。

朝日村の巡回ほ場は、定植直後であった（前回から場所移動）。病害虫の発生はみられなかった。

6 レタス

塩尻市の巡回ほ場は、定植直後であった（前回から場所移動）。病害虫の発生はみられなかった。

朝日村の巡回ほ場は、次作に向け定植準備中であった。

7 アスパラガス

豊丘村（雨除け栽培）の巡回ほ場は、茎葉繁茂期であった。払落しによりアザミウマ類、アブラムシ類およびハダニ類（少発生、少発生、中発生）の寄生がみられた。

飯島町（雨除け栽培）の巡回ほ場は、立茎繁茂期であった。払落しによりアザミウマ類（少発生）の寄生がみられたほか、茎枯病（少発生）の発生もわずかにみられた。

池田町（露地栽培）の巡回ほ場は、立茎繁茂期であった。払落しによりアザミウマ類およびアブラムシ類（いずれも少発生）の寄生がみられた。病害では、茎枯病（少発生）の発生がみられた。

8 ねぎ

南箕輪村の巡回ほ場は、本葉 7.0～7.5 葉であった。虫害では、アザミウマ類（多発生）およびネギハモグリバエ（少発生）の寄生がみられたほか（図4）、ネギコガ（中発生）による食害もみられた。病害では、黒斑病およびさび病（いずれも中発生）の発生がみられた。

山形村の巡回ほ場は、本葉 6.5～7.0 葉であった。アザミウマ類（多発生）、ネギハモグリバエ（少発生）およびネギコガ（少発生）の寄生がみられた。病害では、黒斑病（中発生）の発生がみられた。

9 ながいも

山形村の巡回ほ場は、生育期であった。病害虫の発生はみられなかった。

10 きく

富士見町の巡回ほ場は、収穫中であった。病害虫の発生はみられなかった。



図4 ねぎのネギハモグリバエ
(南箕輪村)